

【第7回アフリカ開発会議サイドイベント】

森から世界を変える

-より良いアフリカ森林ガバナンスのためのイノベティブな技術・アプローチ-

国際協力機構（JICA）は宇宙航空研究開発機構（JAXA）、国際木材熱帯機関（ITTO）との共催のもと、8月29日、アフリカの森林ガバナンスをテーマにサイドイベントを開催しました。ケニア環境・森林省首席次官、コンゴ民主共和国環境・持続的開発省次官など、アフリカ地域各国行政官、民間企業関係者を迎え、100名を超える参加がありました。

1990年から2015年にかけて、アフリカでは8,200万ヘクタールの森林が消失しています。その要因は農地開発、薪炭材採集、違法なものを含む森林伐採、インフラ開発など多岐に亘り、これらへの対策は地球規模課題ともなっています。JICAとJAXAは2016年より「森林ガバナンスイニシアティブ」を立ち上げ、森林減少の早期発見・警戒に貢献する「JICA-JAXA 熱帯林早期警報システム（JJ-FAST）」を開発、以来アフリカを含む世界77か国のリモートセンシングデータを公開し、またその利活用のための人材育成やセミナーなどを実施してきました。

このイベントでは、森林（泥炭地含む）管理が地域の経済や環境の観点からも、また気候変動や異常気象などのグローバルな観点からも、非常に重要な取り組みであることを再確認するとともに、アフリカにおける森林ガバナンスの改善に向けて、リモートセンシングに留まらず、関係国の政策・制度・体制強化や人材育成、民間を含めたアクター間連携の強化などに継続して取り組むことが確認されました。民間セクター参加者からは、森林データの精度とアクセスの改善による、民間投資の阻害要因となっている情報リスク低減への期待が表明され、またJAXAからは衛星技術開発に引き続き取り組む旨などが述べられました。

今後、大きな人口増が見込まれるアフリカでは森林管理の重要性がますます高まります。JICAはJAXAとともに、「森林ガバナンスイニシアティブ」を通じて、引き続き産官学の関係者の連携を推進して行きます。

■本イベントの主な登壇者

【開会挨拶】

天野雄介 JICA 理事

館和夫 宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 理事補佐

【基調講演】

ベンジャミン・トイランベ コンゴ民主共和国環境・持続的開発省 次官

イブラヒム・モハムド・モハメド ケニア共和国 環境・森林省主席次官

ゲルハルト・ディターレ 国際木材熱帯機関 事務局長

笹部茂 住友林業株式会社 代表取締役 執行役員副社長

【パネリスト】

ベンジャミン・トイランベ コンゴ民主共和国環境・持続的開発省 次官

イブラヒム・モハムド・モハメド ケニア共和国 環境・森林省主席次官

熊平智伸 KOMAZA 社コーポレートファイナンスダイレクター

井上泰子 森林総合研究所国際連携・気候変動研究拠点 REDD 研究開発センター シニアリサーチャー

田殿武雄 宇宙航空研究開発機構第一宇宙技術部門 地球観測研究センター主任研究開発員

【モデレーター】

森田隆博 JICA 地球環境部審議役兼森林・自然環境グループ次長

【閉会挨拶】

本郷浩二 林野庁長官

■写真





(c) JAXA

■ 関連する SDGs ゴール :



● 関連リンク（過去の関連イベントなど）

・ 森林ガバナンスイニシアティブ国際セミナーStatement を発表 -日本の技術を通じた森林ガバナンスの改善に向けて- (JICA ウェブサイト)

https://www.jica.go.jp/information/seminar/2017/20171025_02.html